

東南村山 おいしい米づくり情報

第3号 育苗後期編

発行：令和8年4月23日
村山総合支庁農業技術普及課
(TEL：023-621-8295)

今後、**気温は高く経過する**予報です。
苗のヤケに注意し、「**ずんぐり苗**」に仕上げましょう！

育苗期間の温度管理

温度管理の目安		
時期	昼間	夜間
出芽時	30～32℃	
緑化期（1.0葉期まで）	25℃前後	15℃前後
硬化期（1.5葉期以降）	20～25℃	8℃以上

- ・今後も気温が高い予報のため、必ずハウス内および苗床に温度計を設置し、こまめな温度管理を行い、苗ヤケに注意しましょう。
- ・被覆資材は出芽の早い箇所では、覆土から5～10mm出芽したら取り除きます。
- ・出芽揃い後も被覆を続けると、苗の軟弱徒長に繋がるため、早めに取り除きましょう。
- ・移植1週間前からは霜の心配がない限り、**夜間もハウスを開放**しましょう。

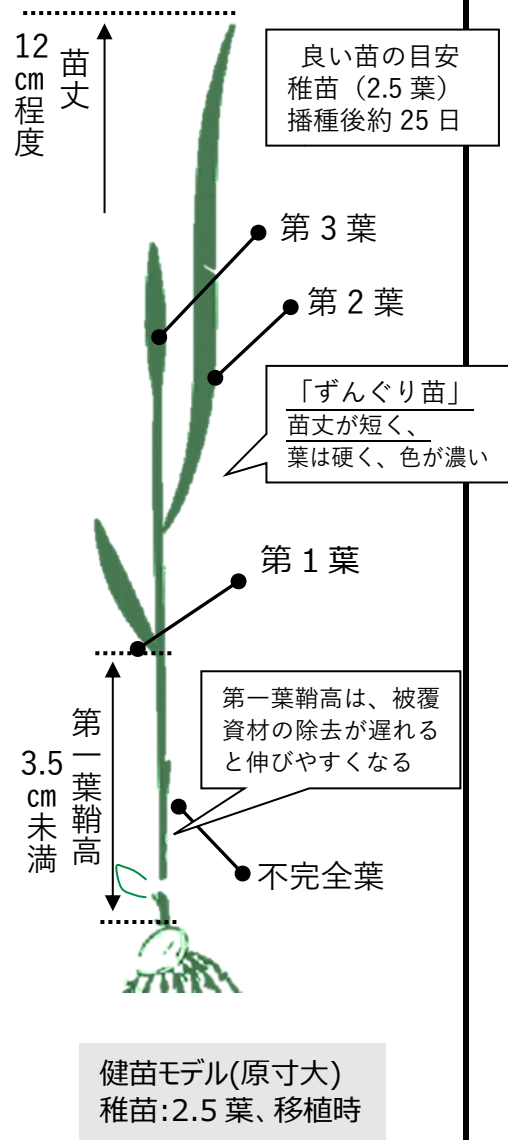
育苗期の水管理

- ・かん水は**十分な水量を早朝に1回**が基本です。
夕方のかん水は、床土温度が下がり、根張り不良となるため避けましょう。
- ・プール育苗では、1.5葉期になってから床土の高さまで入水します。
2.0葉期以降は育苗箱の上1cm程度の水深で常時湛水とします。

育苗期の追肥

苗の種類	育苗期間	追肥時期	追肥量
稚苗 (移植：2.5葉)	20～25日	1.8葉期	窒素成分1g/箱 窒素成分10%の液肥では、原液を100倍希釈して、1ℓ/箱を施用しましょう。
中苗 (移植：3.5葉)	30～35日	1回目：2.0葉期 2回目：3.0葉期	

- ・育苗培土に緩効性肥料(育苗一発肥料)を使用した場合は、追肥は行いません。
- ・特別栽培の場合は、施肥基準に留意してください。



育苗期間の病害対策

- ・出芽を揃え、温度管理やかん水を適切に行い、病害を発生させない環境づくりが大切です。
- ・**カビの発生や、苗の生育異常**が見られる場合は、すぐに普及課までご相談ください。

病原菌	ピシウム	フザリウム	リゾプス	トリコデルマ	苗立枯細菌病 もみ枯細菌病
病徴 (写真)					
主な症状	稲2～3葉期の萎凋症状、ムレ苗	白～淡紅色カビ(籾周辺)	覆土を覆う白色カビ(出芽緑化期)	白色～青緑色カビ(床土や籾周辺)	第2葉葉身基部の黄白化、枯死、坪枯れ
多発条件	・ 出芽～緑化期の低温 ・ 湿度の変動が大きい		・ 高温多湿(出芽時)	・ 緑化開始時の低温 ・ 水分不足 ・ 育苗土の低pH	・ 高温多湿(出芽後) ・ 育苗土の高pH
対策	・ 低温を避け、適切な温度を保つ ・ 過湿にしない		・ 33℃以上の高温、過湿にしない	・ 低温、乾燥を避ける	・ 高温、過湿にしない ・ 発生した場合は 苗を処分

- ・**無加温出芽**では、播種から苗立ちまで時間を要し、**低温条件が発病を助長**します。こまやかな温度管理(目安：30～32℃)で、出芽を促しましょう。
- ・**高温条件は、苗のヤケや病気**(もみ枯細菌病やばか苗病など)**の発生を助長**します。
- ・**苗立枯細菌病、もみ枯細菌病、ばか苗病**などの発病苗は**放置せず、育苗施設外へ持ち出し、適切に処分**しましょう。

高密度播種苗の管理について

〈高密度播種苗(乾籾 250～300 g/箱)の特徴・注意点〉

- ・播種量が増えると、苗は徒長・老化しやすくなるため、**育苗日数は 15～20 日程度**とします。
- ・ハウス内の高温は苗の徒長や老化を助長するため、温度管理には特に注意が必要です。
- ・育苗日数が長くなると、第1葉の黄化、枯死が目立つようになり、本田移植後の初期茎数の増加も緩慢になるため、**移植の3日程度前**に窒素成分量で**約 1.0g/箱の追肥***を行うようにしましょう。
- ・**初期生育が少なくなりやすいため、適正な育苗期間を遵守**し、適期に移植して生育量を確保しましょう。

高密度播種苗：播種量 250～300g 乾籾/箱程度、育苗日数 **15～20 日程度**

慣行苗(稚苗)：播種量 150～180g 乾籾/箱程度、育苗日数 **20～25 日程度**

※特別栽培の場合は、施肥基準に留意してください。

管内の稲作情報をLINEに掲載しています！

QRコードを読み込んで、グループ登録をして下さい。



5/8 より「やまがた米づくりナビ」(Agrilook)のサイトが移行します。ブックマークの再登録をお願いいたします。



ユーザ ID、パスワードはこれまでと変更ありません。詳細は、普及課へお問い合わせください。

～春季農作業事故防止啓発運動 展開中～